


## ティーチング・ポートフォリオ兼教員プロフィール

	<p>食物栄養科 講師</p> <p>鈴木睦代 (すずき むつよ)</p> <p>SUZUKI Mutsuyo</p>
所属	食物栄養科
学位	修士(工学)(静岡大学)
資格・免許	管理栄養士 (第 80970 号) 栄養士 (磐田第 668 号) 公認スポーツ栄養士 調理師 (静岡県: 中東遠第 321 号)
学歴・職歴	<p>&lt;学歴&gt;</p> <p>1995年 3月 山梨学院短期大学食物栄養科 卒業</p> <p>2019年 3月 静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻 修了 (修士(工学))</p> <p>&lt;職歴&gt;</p> <p>1995年 4月 富士産業株式会社 職員 (2000年3月まで)</p> <p>1995年 4月 医療法人社団八洲会袋井みつかわ病院 栄養士 (1995年6月まで)</p> <p>1995年 7月 医療法人社団明徳会協立十全病院 (現: 十全記念病院) 栄養士 (1997年8月まで) 管理栄養士 (1997年8月から2000年10月まで)</p> <p>2000年 11月 社会福祉法人厚生保育会 職員 (2006年4月まで) 豊田南保育園 管理栄養士</p> <p>2006年 6月 ヒューマンリソシア株式会社 職員 (2007年12月まで) ハウス食品株式会社静岡工場商品原材料検査・開発部 派遣社員</p> <p>2007年 5月 社会福祉法人天竜厚生会みなみしま保育園 子育て支援センターほのぼの 食育講師 (2009年3月まで)</p> <p>2008年 1月 医療法人社団緑生会 職員 (2017年1月まで) 天王介護老人保健施設 管理栄養士</p> <p>2017年 4月 常葉大学短期大学部保育科 兼任講師 (担当科目: 子どもの食と栄養) (2019年7月まで)</p> <p>2017年 4月 合同会社 MiMo チルコロはぐみな保育園 食育講師 (現在に至る)</p> <p>2019年 5月 専門学校中央医療健康大学校 (学校法人鈴木学園) トータルケア鍼灸学科 兼任講師 (担当科目: 運動と栄養) (現在に至る)</p> <p>2020年 4月 山梨学院短期大学食物栄養科 専任講師 (現在に至る)</p> <p>2020年 4月 常葉大学健康プロデュース学部心身マネジメント学科 兼任講師 (担当科目: 健康スポーツ栄養学) (2020年7月まで)</p>

担当科目	給食運営論 給食運営実習Ⅰ 給食運営実習Ⅱ 給食運営実習Ⅲ 給食運営実習Ⅳ 栄養学各論 栄養学各論実習 運動生理学 食事設計実習 栄養学総論（パ） 卒業演習Ⅰ 卒業演習Ⅱ
専門分野	給食管理 食と栄養 食教育 スポーツ栄養学 健康情報
現在の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生、高校生、大学生における食生活の実態調査と食教育の必要性の検討</li> <li>・「Excel を用いた短期大学用栄養計算ソフト」の使用評価と運用、学習評価に関する研究</li> <li>・スポーツ栄養サポートアプリ導入とスポーツ栄養士業務の価値化に関する研究</li> <li>・大学ラグビー部のスポーツ栄養サポートに関する研究</li> <li>・大学スケート部のスポーツ栄養サポートに関する研究</li> <li>・栄養士・管理栄養士の ICT 活用に関する研究</li> <li>・日本人女性におけるカルニチン摂取による体組成変化と運動習慣との関連に関する研究</li> <li>・若者世代（18～29 歳）に注目した食改善に関する研究</li> <li>・保育園のオーガニック・地産地消給食メニューに関する調査研究</li> </ul>
競争的資金等の研究課題	—
所属学会	日本栄養改善学会 日本給食経営管理学会 日本スポーツ栄養学会 日本食育学会 産学連携学会 日本栄養学教育学会
メッセージ	<p>山梨学院短期大学食物栄養科は母校です。今まで管理栄養士として、病院、保育園、介護老人保健施設、短大講師、スポーツ栄養サポートなどの現場を経験しました。そして、多くの方々に出会い助けていただき貴重な経験をしました。これらを活かし、学生のみなさんと関わっていきます。</p> <p>気づきと自発的な行動は、学生生活を楽しいものにしてくれます。また、食に関わるうえで大切なのは、相手のことを思いやること、おいしいものを提供することにこだわることです。みなさん一緒に考えて、行動へつなげていきましょう。</p>

教育	
2023年4月～2024年3月	
教育方針	<p>専門職として働く場に注目し、必要な知識と技術を2年間で習得するなかで、食と栄養に興味を持ち、対象者の身になっておいしい食事提供が行える栄養士を養成したい。</p>
授業	<p>授業の工夫</p> <p>&lt;給食運営論&gt;  食事の管理を中心とした栄養管理を実践し、食環境として給食の概念を理解するために、栄養士・管理栄養士としての現場経験を活かし、専門職として働くための場と、授業がつながる展開を行っている。  授業は、PP.と資料でコンテンツを作成した。さらに、給食現場の衛生管理に重要な HACCP や大量調理施設衛生管理マニュアルが、調理現場の区域や動線と結びつけられる教材作成や、教員が集団給食業務を行った動画を作成し、家庭の調理と集団給食調理の違いが理解できるように努めた。また、給食食器を取り扱うメーカーの方を講師にお招きし講義を聴き食器を見て触る体験を行った。それにより近年給食現場では、ニュークックチルスシステムの導入が進んでいる。テキストでは理解が難しいため動画や食器を提供していただき授業に取り入れている。  本授業は、自主的な学びを生み出すため、毎回担当学生を決め授業内容を振り返り理解したこと、調べたこと、自分の経験を照らして示したことを発表し、フィードバックやディスカッションを行いアクティブラーニングの手法を取り入れている。教員だけでなく、学生の給食体験と講義内容が繋げることができる授業を行い、常に質問と回答ができる環境づくりを行った。理解度を深めるため、授業後はまとめ用教材を提供した。</p> <p>&lt;給食運営実習 I &gt;  給食管理は、Excel、Word、PowerPoint、Forms、栄養計算ソフトなどの活用が必要とされる。表計算、媒体作成、アンケート作成と回収、献立作成等を行える教材作成を行った。給食の栄養管理と関連づけて実践できるように努めている。  Excel、Word、PowerPoint は、はじめに「資料づくり」の教材を作成し、ユニバーサルデザイン文字や書式の統一など資料作成やレポート作成に必要とされるスキル向上につながる講義と演習を行った。その後、表計算、媒体作成、アンケート作成と回収、献立作成等など必要に応じた機能を学んだ。  献立作成では、1食分の献立作成をした後、自宅で調理と試食をした。それらは、写真を撮影し、Wordに写真添付した資料を作成し、グループワークを行い、良かった点、改善が必要な点を話し合い、一連の流れで献立の分量や味の感覚を理解できるように支援した。また、従来の学内PCのみ使用可能な商用の栄養計算ソフトに加え、タブレットや学生のPCでも栄養計算が可能なExcel 栄養計算ソフトを作成した。なお、Excel 栄養計算ソフトは、学生の意見を聞きながら、ソフトが使用しやすくなるように毎年更新を行っている。提出用の献立表は、Excel で作成する教材にして Excel を活用する機会が増えスキル向上につなげている。  今年度より、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムが始まり、プログラム内容と給食現場での活用がリンクできるように授業をすすめた。また、山梨県との連携で、第4次やまなし食育推進計画の現状と課題である、朝食欠食率の増加、若い女性のやせの割合の増加を踏まえ、授業内で Forms を使いアンケート作成をし、食物栄養科、保育科の学生にアンケート調査を行った。その後、アンケート集計と分析を行い、若い世代の課題を抽出し第4次やまなし食育推進計画や国民健康・栄養調査のデータと比較し、改善のためのリーフレットとプレゼン資料を作成した。Forms は、使用方法の教材作成を行った。</p>

教育 (つづき)

2023 年 4 月～2024 年 3 月 (つづき)

授業  
(つづき)

授業の工夫  
(つづき)

<給食運営実習Ⅱ>

給食運営実習は、栄養士の専門教育科目として、給食の意義、役割を理解し、利用者に適切な食事を提供するための給食運営に必要な食事の計画や給食サービスに関する知識と技術を実践し修得する。その中で、教員の栄養士・管理栄養士として現場経験を活かし、実習・演習を展開している。演習で使用する基礎実習献立の見直しと実習テキスト、実習ノートの改訂を行った。従来の学内 PC のみ使用可能な商用の栄養計算ソフトに加え、タブレットや学生の PC でも栄養計算が可能な Excel 栄養計算ソフトを作成し献立作成課題が学外でも行える取り組みを行った。Excel 栄養計算ソフトは、学生が使用しやすいよう毎年更新を行っている。給与栄養目標量は、今年度より給食現場の意見を参考に献立作成を行う際は給与栄養目標量を教員が数値を提示していたが、学生が対象者に合わせて給与栄養目標量を算出してから献立作成を行うように教材作成を行った。これにより、今までより実践に近い献立作成の方法を取り入れた。給与栄養目標量の算出は、Excel で表計算ができるコンテンツを作成しデータサイエンス教育に繋げた。

本実習は、給食運営論、給食運営実習Ⅰで学んだ知識と実技をもとに、学内の給食実習施設を利用し、給食運営を実践した。はじめに、教員が集団給食業務を行った動画教材を作成し実習現場の行動に結びつける演習を行った。その後、集団給食用の献立作成、HACCP や大量調理施設衛生管理マニュアル流れをまとめる教材を取り入れ理解を深めてから、グループ活動で給食実習と給食管理の演習をローテーションで行った。

<栄養学各論>

ライフステージ別に、生理的・身体的特徴をふまえ、食事の管理を中心とした栄養管理を実践するため、栄養学の専門的な知識を活用し、健全な発育・発達、健康の維持・増進、疾病予防のための知識を理解するうえで、管理栄養士として現場経験を活かし、専門職として働くための場と、授業がつながる展開をしている。各授業で PP. と資料でコンテンツを作成し、本年度よりテキストの追加を行った。栄養学とライフステージ別の栄養学が結びつけられるように、医療、介護、保育、スポーツ現場での事例を挙げ理解を深めることができる授業を行った。

本授業は、自主的な学びを生み出すため、毎回担当学生を決め授業内容を振り返り理解したこと、調べたこと、自分の経験を照らして示したことを発表し、フィードバックやディスカッションを行いアクティブラーニングの手法を取り入れている。教員だけでなく、学生が事例を取り挙げライフステージ別の栄養学が実践と結びつけることができる授業を行い、常に質問と回答ができる環境づくりを行った。理解度を深めるため、授業後はまとめ用教材を提供した。

教育 (つづき)

2023 年 4 月～2024 年 3 月 (つづき)

授業 (つづき)

授業の工夫  
(つづき)

<栄養学各論実習>

ライフステージ別に、生理的・身体的特徴をふまえ、食事の管理を中心とした栄養管理を実践するため、栄養学の専門的な知識を活用し、健全な発育・発達、健康の維持・増進、疾病予防のための知識を理解するうえで、管理栄養士として現場経験を活かし、専門職として働くための場と、実習・演習がつながる展開をしている。

栄養士が働く現場に近い実践を行うため栄養学とライフステージ別の栄養学が結びつけられるように、医療、介護、保育、スポーツ現場での事例を挙げ理解を深めることができる講義を行った。演習では、離乳食、嚥下食、とろみ茶の試食を体験した。

実習献立は、見直し、実習テキストの修正と実習レポート様式の改訂を行った。また、従来の学内 PC のみ使用可能な栄養計算ソフトに加え、タブレットや学生の PC でも栄養計算が可能な Excel 栄養計算ソフトを作成し、献立作成が学外でも行える取り組みを行った。Excel 栄養計算ソフトは、学生が使用しやすいよう毎年更新を行っている。

乳幼児の調乳実習は、最新情報を知り実践するためメーカーの方を招いて演習と実習を行っている。

本実習は、栄養学各論で学んだ知識をもとに、各ライフステージ別の理解を深めるため、ライフステージ別の献立作成と調理実習を行う。少人数でのグループ活動で調理実習、調乳実習、対象者に合わせた調理のための演習、献立作成したメニュー実習を行った。レポート作成は、調理実習ノートとの違いに配慮し、対象者に必要なエネルギー・栄養素や配慮点が明確になるように指導を行った。

<運動生理学>

健康の保持増進、生活習慣病予防において、栄養に関する知識と運動に関する知識が必要である。これらの観点から身体運動の仕組みからエネルギー代謝への影響など運動を行った際に生じる変化について修得するため、スポーツと運動、栄養学がつながる内容で行った。

各授業で PP. と資料でコンテンツを作成した。栄養学と運動の機能を結びつけるため、スポーツ、医療、介護、保育現場での事例を挙げ授業を行った。講義は、項目ごとにまとめた練習問題を行った。

アスリートが身体・体力測定を行っている様子を事前に撮影した動画を見て、器具の使い方、測定の仕方とアスリートの身体の仕組みを確認した。また、運動の種類や方法、運動の効果などの面から運動処方について器具を利用して身体測定やロコモティブシンドローム診断の演習を行った。

アスリートに対し競技力向上やコンディショニングを目的として栄養学からマネジメントを行うために、運動と栄養の関係を理解するため、教員が行ったアスリートの栄養サポートについて講義を行った。

演習は、InBody による測定を行った。期間を空けて 2 回行い学生自身の変化を評価した。また、生活時間調査と 1 日の消費エネルギー推定量を算出した。算出は、Excel で表計算ができるコンテンツを作成し、データサイエンス教育に繋げた。その後、消費エネルギーと摂取エネルギーを評価し、運動や食事摂取に取り組んだ。それぞれ規定の項目でレポートを書き、自身の演習から運動生理学の理解を深めた。



教育 (つづき)

2023 年 4 月～2024 年 3 月 (つづき)

授業 (つづき)

授業の工夫  
(つづき)

<栄養学各論実習>

ライフステージ別に、生理的・身体的特徴をふまえ、食事の管理を中心とした栄養管理を実践するため、栄養学の専門的な知識を活用し、健全な発育・発達、健康の維持・増進、疾病予防のための知識を理解するうえで、管理栄養士として現場経験を活かし、専門職として働くための場と、実習・演習がつながる展開をしている。

栄養士が働く現場に近い実践を行うため栄養学とライフステージ別の栄養学が結びつけられるように、医療、介護、保育、スポーツ現場での事例を挙げ理解を深めることができる講義を行った。演習では、離乳食、嚥下食、とろみ茶の試食を体験した。

実習献立は、見直し、実習テキストの修正と実習レポート様式の改訂を行った。また、従来の学内 PC のみ使用可能な栄養計算ソフトに加え、タブレットや学生の PC でも栄養計算が可能な Excel 栄養計算ソフトを作成し、献立作成が学外でも行える取り組みを行った。Excel 栄養計算ソフトは、学生が使用しやすいよう毎年更新を行っている。

乳幼児の調乳実習は、最新情報を知り実践するためメーカーの方を招いて演習と実習を行っている。

本実習は、栄養学各論で学んだ知識をもとに、各ライフステージ別の理解を深めるため、ライフステージ別の献立作成と調理実習を行う。少人数でのグループ活動で調理実習、調乳実習、対象者に合わせた調理のための演習、献立作成したメニュー実習を行った。レポート作成は、調理実習ノートとの違いに配慮し、対象者に必要なエネルギー・栄養素や配慮点が明確になるように指導を行った。

<運動生理学>

健康の保持増進、生活習慣病予防において、栄養に関する知識と運動に関する知識が必要である。これらの観点から身体運動の仕組みからエネルギー代謝への影響など運動を行った際に生じる変化について修得するため、スポーツと運動、栄養学がつながる内容で行った。

各授業で PP. と資料でコンテンツを作成した。栄養学と運動の機能を結びつけるため、スポーツ、医療、介護、保育現場での事例を挙げ授業を行った。講義は、項目ごとにまとめた練習問題を行った。

アスリートが身体・体力測定を行っている様子を事前に撮影した動画を見て、器具の使い方、測定の仕方とアスリートの身体の仕組みを確認した。また、運動の種類や方法、運動の効果などの面から運動処方について器具を利用して身体測定やロコモティブシンドローム診断の演習を行った。

アスリートに対し競技力向上やコンディショニングを目的として栄養学からマネジメントを行うために、運動と栄養の関係を理解するため、教員が行ったアスリートの栄養サポートについて講義を行った。

演習は、InBody による測定を行った。期間を空けて 2 回行い学生自身の変化を評価した。また、生活時間調査と 1 日の消費エネルギー推定量を算出した。算出は、Excel で表計算ができるコンテンツを作成し、データサイエンス教育に繋げた。その後、消費エネルギーと摂取エネルギーを評価し、運動や食事摂取に取り組んだ。それぞれ規定の項目でレポートを書き、自身の演習から運動生理学の理解を深めた。

教育 (つづき)

2023 年 4 月～2024 年 3 月 (つづき)

授業 (つづき)

授業の工夫  
(つづき)

< 栄養学総論 (パティシエコース) >

「食」及び「栄養」に関する基本的知識を学び、専門職として働くうえで栄養学の知識を活用できる能力を養うため、栄養の意義について理解し、食品に含まれる栄養素についての種類と機能、並びに消化吸収などの代謝過程の働きを学ぶことを目的としている。また、豊かで健康な食生活を送るための、さまざまな栄養の知識を修得できるよう努めた。

各授業で PP と資料でコンテンツを作成し、本年度よりテキストの追加を行った。さらに、栄養学とライフステージ別の栄養学が結びつけられるように、事例を上げ理解を深めることができる授業を行った。

本授業は、毎回担当学生を決め事前学習としてテキストを読み、理解したこと、調べたこと、自分の経験を照らして示したことを発表し、ディスカッションを行うアクティブラーニングの手法を取り入れている。理解度を深めるため、授業後はまとめ用教材を提供した。加えて、自由記述で授業内容を振り返り、(理解したこと、質問)等を WebClass に入力し、その内容を翌週の授業始めに共有しフィードバック繰り返し行いディスカッションを行った。今までの食生活や身体状況を見つめ、食改善になる授業を行い、学生自身の健康増進の興味につなげ、常に質問と回答ができる環境づくりを行った。また、製菓衛生師試験を念頭に置いて、必要な項目に関して教材作成を行った。

< 食事設計実習 >

学生が作成した献立の添削を主に行った。作成した献立をチェックし、繰り返し双方向のやり取りを行った。個別で献立作成の指導を行った。栄養価算出の方法、栄養比率の算出方法、使用量と価格算出の講義を担当し献立作成を行ううえで重要となるポイントを伝えるようにした。

献立作成で使用する献立表は、食事設計実習の献立作成課題をしやすいよう、毎年検討を行っている。今年度は、朝食、昼食、夕食により記入する欄が異なるため、朝食、昼食、夕食用に必要な項目だけ記入できるように作り直した。

< 卒業演習 I 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム >

今年度より、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムが導入された。導入にあたりガイダンスを担当した。ガイダンスは、食と健康にデータサイエンス教育がどのように関連するのかを授業科目を具体的に挙げ、栄養士や製菓衛生師の活用例を講義した。

「プログラミングの基礎」を担当し、身長と体重から算出する BMI と標準体重を例に挙げ、プログラミングの方法を提示した。そこで栄養管理の現場で求められる集団で管理する方法として Excel を使用した表作成と表計算を行い、栄養士や製菓衛生師が求められるデータサイエンスについて確認をした。

教育 (つづき)		
2023年4月～2024年3月 (つづき)		
授業 (つづき)	授業改善のための取組	<p>毎回行う、授業後の振り返りを元に、学生の理解を読み取り、翌週の授業においてフィードバックで改善を図っている。さらに、全授業終了後に行う「授業評価アンケート」を分析し、教育目標の達成度や、自由記述で挙げられた内容を活かして、授業改善を行っている。また、授業の定着度を図る研究結果を授業改善に結びつけている。テキストや作成する資料を見直し、学生の身になってわかりやすさや、実践に近い学びができるよう工夫を行った。</p>
ゼミ	ゼミ活動 (卒業演習) (修了研究)	<p>ゼミ生8名を4つのテーマで指導した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ栄養 大学ラグビー部の練習に参加して、身体組成を確認し、選手の栄養に関する要望を聞き取った。大学ラグビー部寮の食堂を訪問し食事提供や喫食状況を見学した。これらを参考にして大学ラグビー選手の夕食メニューの検討と評価を行い献立作成した。献立の検討と試作を繰り返し、献立を採用していただき担当者に指導いただき調理と選手へ夕食の提供を行った。 大学ラグビー選手の昼食メニューの検討を行い、ラグビー部の学生と共同で動画作成を行った。SNSを活用しラグビー部とゼミで動画をSNSで共有を行った。</li> <li>・保育園給食と食育 保育園給食におけるオーガニック食品や地産地消を取り入れた給食の検討を行った。その中で、静岡県にある保育園を訪問し食育体験を行った。また、保育園の給食レシピを活用してゼミ生全員で学内の給食施設を利用し給食づくりを行った。さらに、レシピ53品を書籍化し2024年度出版の準備を行っている。</li> <li>・若者世代の食育 明治大学食料経済学専攻の藤本ゼミと若者世代の食生活について共同研究を行った。大学生の現状を知るため、保育園の食育キャンプへ一緒に参加し交流を図った。次に大学生に対し食事に関するアンケート調査を行った。アンケート結果を元に簡単にできる料理動画を作成しSNSで共有した。さらに、若者世代における朝食欠食の問題と改善点、間食のメリットの資料を作成し、大学生(3・4年生)・大学院生に対してプレゼンテーションとディスカッションを行った。これらの取り組みは、2023年度山梨県栄養学術研究会でポスター発表を行った。これらの取り組みに対しゼミ学生2名は、2023年度スチューデント・オブ・ザ・イヤー賞(学術)を受賞した。</li> </ul>
	卒業レポート・ 修了研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ選手の食事と栄養について –大学ラグビー選手への食事提供と食育活動–</li> <li>・ラグビー部の昼食について –Instagramを通したレシピ動画で食事の向上を目指す–</li> <li>・保育園給食の作成と食育活動 –子どもたちにとって、楽しく美味しく栄養のとれる食を考える–</li> <li>・若者食堂 –若者世代の朝食欠食の問題とその改善のために–</li> </ul>



教育 (つづき)	
2023 年 4 月～2024 年 3 月 (つづき)	
課外活動	<p>&lt;Do 好会！食べる部 (べ) クラブ顧問&gt; ラグビー部のスポーツ栄養サポート、保育園の食育キャンプの参加など現場で栄養士業務を指導し体験をした。</p> <p>&lt;山梨学院大学スケート部 スポーツ栄養サポート&gt; スピードスケート、ショートトラック選手に対し、食事や栄養の摂り方や身体づくりについてサポートを行った。スポーツ栄養学の講座を行った。体力、身体測定フィードバックに立ち合いアドバイスをを行った。希望選手に個人面談を行った。男子寮の朝食について SNS を活用してアドバイスをした。冬季はレースに帯同し栄養サポートを行った。</p> <p>&lt;山梨学院大学ラグビー部 スポーツ栄養サポート&gt; 選手の朝食、夕食のアドバイスをを行った。試合や合宿に帯同し食事や補食について栄養面からサポートを行った。定期的に栄養講座を行い知識向上につとめた。希望選手に個人面談をおこなった。強化選手に対し、朝食と夕食の写真を送信してもらい、InBody 測定結果を元に栄養指導を行った。</p> <p>&lt;授業設計研究会 (山梨県内大学・短期大学) &gt; 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度への申請に向けて、山梨県内の大学、短期大学との連携を図り、申請に向けた情報収集や意見交換を行った。 2024 年 2 月、山梨学院短期大学の数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの取り組みと食物栄養科における事例報告を行った。</p>
2023 年 3 月以前	
主な教育業績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2021 年度卒業演習で、学生が自宅 PC やタブレットで献立作成が行える環境の構築を行うため、日本食品標準成分表 2020 年版 (八訂) を用いて Excel で栄養計算できるソフトの修正と使用評価を行った。Excel の栄養計算ソフトは授業で運用した。ゼミ生は「山梨県栄養学術研究会」で研究発表を行った。</li> <li>・ 2021 年度卒業演習で、保育園給食の春夏メニューをレシピ本作成し出版した。</li> <li>・ 2022 年度卒業演習で、保育園給食の秋冬メニューをレシピ本作成し出版した。</li> </ul>

研究		
2023年4月～2024年3月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（著書） はぐみな保育園のおだいどころ～オーガニック食品・地産地消の給食をどうぞ～秋冬メニュー （共著）	2023年12月	株式会社 PUBFAN パブファンセルフ ・担当部分：「発刊にあたり」、「給食メニュー」、「はぐみな保育園の給食レシピを活用した給食づくり」、「はぐみな保育園 食育キャンプ」 (pp. - ii) (pp. 1-52)
（学術論文） スポーツ栄養サポート分野におけるテキスト分析ツール「KH Coder」の活用 （共著）	2024年3月	山梨学院短期大学研究紀要 第44号
（その他：学会発表（口頭）） 高校生における食教育の必要性和 Zoom 導入の検討 -自治体の食育推進事業の食育講座前後のアンケート結果を通して- （共著）	2023年6月	一般社団法人日本食育学会 第11回学術大会
（その他：学会発表（示説）） 日本人女性におけるカルニチン摂取による体組成変化と運動習慣との関連について （共著）	2023年9月	特定非営利活動法人 日本栄養改善学会 第70回日本栄養改善学会学術総会
（その他：学会発表（口頭）） 栄養士養成課程の IT イノベーションのケーススタディ （共著）	2023年11月	一般社団法人経営情報学会 2023年全国研究発表大会
（その他：研究発表（口頭）） 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの取り組みと DX による学修者本位の学修の実現 （単著）	2024年2月	山梨県授業設計研究会
（その他：研究発表（示説）） 大学生の食生活調査および食と栄養に関するアプローチについて （共著）	2024年3月	第8回山梨県栄養学術研究会

研究 (つづき)		
2023年3月以前 (主なもの)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(著 書) 給食経営管理テキスト第5版 (共著)	2023年 3月	株式会社学建書院 ・担当部分：「施設・設備管理」 (pp. 112-131)
(著 書) 給食経営管理テキスト第4版 (共著)	2021年 3月	株式会社学建書院 ・担当部分：「施設・設備管理」 (pp. 107-127)
(著 書) はぐみな保育園のおだいどころ～オーガニック食品・地産地消の給食をどうぞ～春夏メニュー (共著)	2022年 9月	株式会社 ITSC 静岡学術出版事業部 ・担当部分：「発刊にあたり」 「給食メニュー」 (pp. ii - vi) (pp. 1-72)
(著 書) スポーツ栄養士業務の可視化と価値化 ～taberube.jpの実装と運用～ (共著)	2020年 4月	株式会社 ITSC 静岡学術出版事業部 ・担当部分：(pp. 7-108)
(学術論文) 「民間保育士等キャリアアップ研修」後の食育・アレルギー対応に関する保育士等の行動変容と検討 (共著)	2023年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第43号
(学術論文) 大学ラグビー部のスポーツ栄養士サポートにおける食事・休養を取り入れた栄養戦略とデータ活用の検討について (共著)	2022年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第42号
(学術論文) 山梨県内の保育所における食物アレルギーの子どもの状況と保育現場の対応策に関する検討 (共著)	2021年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第41巻

研究 (つづき)		
2023年3月以前 (主なもの) (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(学術論文) スピードスケート選手におけるスポーツ栄養サポート介入と自己管理の必要性 (共著)	2018年 3月	山梨学院短期大学研究紀要 第39巻
(その他：学会発表) 食物栄養科学生による栄養価計算ソフト改良の試み～手軽に献立作成を行う方法の検討～ (共著)	2022年 3月	第6回山梨県栄養学術研究会
(その他：シンポジウム) アスリートの食事と栄養 スポーツ栄養士のサポート実践例から (単著)	2022年 2月	日本栄養改善学会 第8回関東・甲信越支部学術総会 (オンライン)
(その他：学会発表) スポーツをする生徒の食習慣・健康状況－食育講座実施前後の比較－ (共著)	2022年 2月	日本栄養改善学会 第8回関東・甲信越支部学術総会 (オンライン)
(その他：学会発表) スポーツ栄養サポートで栄養士が価値化するアプリ研究開発について (共著)	2020年 2月	第5回静岡県学術研究会
(その他：学会発表) スポーツ栄養学を情報科学で価値化する (共著)	2019年 10月	一般社団法人経営情報学会 秋季全国研究発表大会 2019
(その他：学会発表) 保育士を目指す短期大学生における食生活の実態調査と食教育の必要性の検討2 (共著)	2019年 6月	一般社団法人日本食育学会 第7回学術大会
(その他：学会発表) 保育所における食育実践の定量化の試み事例 (共著)	2019年 6月	一般社団法人日本食育学会 第7回学術大会

研究 (つづき)		
2023年3月以前 (主なもの) (つづき)		
タイトル (単著・共著)	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
(その他：学会発表) 学学 (SSH-MOT) 連携活動に関する事例報告 その2～部活動支援アプリ開発プロジェクト～ (共著)	2019年 6月	特定非営利活動法人産学連携学会 第17回大会 (奈良大会)
(その他：学会発表) 「部活 Do (どう)！ 食べる部 (べ)」アプリ 導入後における KH Coder によるアスリートの意識調査 (共著)	2019年 3月	特定非営利活動法人日本栄養改善学会 第6回関東・甲信越支部会学術総会
(その他：発表) 未来のアスリートを食育で価値化するアプリ「部活 Do! 食べる部」の研究開発 (共著)	2018年 12月	情報学シンポジウム 2018「スポーツと情報」(静岡大学情報学部)
(その他：学会発表) 保育士を目指す短期大学生における食生活の実態調査と食教育の必要性の検討 (共著)	2018年 5月	一般社団法人日本食育学会 第6回学術大会
(その他：学会発表) 学学 (SSH-MOT) 連携活動に関する事例報告 ～部活動支援アプリ開発プロジェクト～ (共著)	2018年 5月	特定非営利活動法人産学連携学会 第16回大会 (山口大会)



## 社会貢献

産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等

2023年4月～2024年3月

- ・市立高校サッカー部スポーツ栄養講義・スポーツ栄養サポート（2015年～現在に至る）
- ・磐田市健康増進課委託事業「高校生食育講義」（2017年～現在に至る）
- ・私立中学校・高校剣道部スポーツ栄養講義・スポーツ栄養サポート（2017年～現在に至る）
- ・合同会社MiMo チルコロ はぐみな保育園 食育講師（2017年～現在に至る）
- ・山梨学院大学スケート部スポーツ栄養講義・スポーツ栄養サポート（2018年～現在に至る）
- ・市立高校女子バスケットボール部スポーツ栄養講義（2018年～現在に至る）
- ・専門学校中央医療健康大学校（学校法人鈴木学園）トータルケア鍼灸学科 兼任講師（2019年～現在に至る）
- ・ジュニアアスリートスキルアップ研修会主催「ジュニアスポーツ選手の食事の摂り方」講師（2020年1月～現在に至る）
- ・公益財団法人山梨県学校給食会評議員（2020年7月～現在に至る）
- ・山梨学院短期大学地域連携研究センター主催「管理栄養士国家試験対策講座 給食経営管理論」講師（2020年～現在に至る）
- ・山梨学院大学ラグビー部スポーツ栄養講義・スポーツ栄養サポート（2021年1月～現在に至る）
- ・静岡県立高校野球部スポーツ栄養講義・スポーツ栄養サポート（2021年1月～現在に至る）
- ・山梨学院短期大学地域連携研究センター主催「管理栄養士国家試験対策講座 応用栄養学」講師（2021年～現在に至る）
- ・エフエム甲府「楽しい子育て」～未来のかけはし～ラジオ出演（2023年1月～現在に至る）
- ・山梨学院短期大学地域連携研究センター主催公開講座「トレーニング効果をアップする食生活と栄養」講師（2023年6月）
- ・山梨県立甲府城西高等学校模擬講義「栄養学がつなぐ食と健康」講師（2023年7月）
- ・大学コンソーシアムやまなし“未来の学び”小学生・中学生のための生涯学習講座「栄養学がつなぐ勉強とスポーツの食生活教室ー食と栄養でなりたい自分になろうー」（2023年8月）
- ・令和5年度山梨ことぶき勸学院「高齢者の食生活と運動」講師（2023年11月）
- ・令和5年度山梨県学校給食従事者衛生管理研修会「子どもの食と栄養ーおいしい給食のための衛生管理と栄養管理のポイントー」（2023年11月）
- ・山梨県立富士河口湖高等学校模擬授業「栄養学がつなぐ食と健康」講師（2024年3月）

社会貢献（つづき）

産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等

2023年3月以前（主なもの）

- ・静岡県立高校女子バスケットボール部スポーツ栄養講義・スポーツ栄養サポート（2013年～2021年3月）
- ・常葉大学短期大学部 保育科 兼任講師（2017年～2019年まで）
- ・静岡県スポーツ少年団育成母集団研修講師（2018年）
- ・大塚製薬株式会社ウェルネスセミナー講師（2018～2019年）
- ・静岡県栄養・栄養職員自主研修会講師（2019年）
- ・静岡市長田南中学校学校保健委員会食育講座講師（2019年）
- ・公益財団法人浜松体育協会地域スポーツ指導者養成講習会「スポーツ栄養学」講師（2020年）
- ・明治大学政治経済学部「食料経済学」特別講師（2020年）
- ・甲斐市立竜王北中学校運動部スポーツ栄養学講演会講師（2021年）
- ・公益社団法人山梨県栄養士会「給食施設業務関係者等（管理栄養士・栄養士）研修会講師（2021年）
- ・ナショナルチーム所属のスピードスケート選手に対する栄養個人サポート（2017年～2022年まで）
- ・静岡県立磐田北高等学校健康講義講師（2021年）
- ・浜松市教育研究会（栄養研究会）講師（2021年）
- ・山梨学院短期大学地域連携研究センター主催公開講座「スポーツ栄養学を取り入れた中高生の食教育」講師（2023年6月）
- ・NPO法人磐田市スポーツ協会スポーツ講座講師（2021年）
- ・静岡県立高校ラグビー部スポーツ栄養講義・スポーツ栄養サポート（2017年～2023年）
- ・浜松市立庄内中学校3年生対象食育講座講師（2019年7月～2022年）
- ・浜松市立庄内中学校2年生対象食育講座講師（2019年7月～2022年）
- ・山梨県社会福祉協議会主催保育士等キャリアアップ研修会「食育・アレルギー対応」講師（2021年～2023年）
- ・日本スポーツ栄養学会ホームページ 公認スポーツ栄養士インタビュー掲載（2022年8月）
- ・静岡大学総合科学技術研究科事業開発マネジメントコース「事業開発マネジメントフォーラム2022」講演（2022年10月）
- ・富士宮市立富士宮第一中学校全校生徒、教職員対象食育講座講師（2022年10月）
- ・中巨摩学校食育推進研究会 南アルプス市立甲西中学校全校生徒、教職員、中巨摩地域関係者対象講演会講師（2023年2月）

受賞 ※個人、所属団体

- ・HamaZo 賞（静岡大学情報学部情報学シンポジウム2018「スポーツと情報」）（2018年）
- ・八巻賞（静岡大学大学院総合科学技術研究科工学専攻事業開発マネジメントコース）（2019年）